第2章　これまでの取組と課題

1　第１次計画における取組と課題（令和２年度～令和６年度）

令和２年３月に策定した第１次計画では、以下の３つの基本方針に基づき、家庭、地域、学校等を通じた社会全体で、本との出会いや本との楽しい時間を持つための読書活動の推進に取り組んできました。また、図書館や学校、関係団体等の連携・協力、市立図書館や学校図書館の整備・充実にも取り組みました。

なお、第１次計画期間中は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、小中学校の休校や図書館の休館など措置を講じたため、計画どおりに実施することができなかった取り組みもありました。

今後は、このような不測の事態に「いかにして、子どもたちに読書の楽しさを伝えるのか」、その対策方法の検討が必要です。

第１次計画の基本的方針

1　家庭、地域、学校における子どもが読書に親しむ機会の提供と環境の整備・充実
2　子どもの読書活動に関する啓発・広報の推進
3　子どもが読書に親しむ推進体制の充実

（1）家庭、地域、学校における子どもが読書に親しむ機会の提供と環境の整備・充実

①家庭における子どもの読書活動の推進

家庭における読み聞かせや本に関わる楽しい思い出は、本そのものへの興味につながり、その後の少年期や青年期における自主的な読書活動につながっていきます。

保護者が進んで読書をする姿を見せる、子どもを図書館に連れて行く、子どもの手が届くように家に本を置く等、家庭における読書環境が子どもの読書形成に及ぼす影響は大きいと言えます。

本市では、第１次計画に基づき、家庭における読書活動推進のため、様々な取組を実施しましたが、引き続き、保護者が家庭において、子どもが本に親しむ機会を作り、子どもと共に読書を楽しみ、子どもの読書の習慣化に積極的な役割を果たすことが求められます。

家庭における子どもの読書活動の推進としては、ブックスタート事業（＊4）、セカンドブック事業（＊5）、「読み聞かせのポイント」をまとめたチラシの作成・配布、図書館では絵本の読み聞かせ講座等を開催するなど、読書の重要性について保護者への啓発

が行われました。
・ブックスタート事業　　対象：638 人 配布：638 人 配布率：100 %（令和 5 年度）
・セカンドブック事業　　対象：852 人 配布：848 人 実施率 99%（令和 5 年度）

【課題】
家庭における推進については、関係機関との連携を強化し、地域が一体となって家庭における読書活動を推進していく必要があります。

②地域における子ども読書活動の推進
図書館には多くの利用者が訪れます。子どもは、自分の読みたい本を豊富な図書の中から自由に選択し、読書の楽しみを知ることができます。また、保護者にとっても、自分自身が本を借り読書をする場所であるとともに、自分の子どもに与えたい本を選択し、子どもと一緒に読書することのできる場所です。図書館は、子どもの読書活動の拠点施設です。また、公民館・生涯学習センターは、地域にある身近な生涯学習施設であり、利用しやすい立地条件にあることから、子どもの読書活動を推進する場所として有効です。
市は、常設の図書館 3 館、公民館図書室 6 館及び図書館サービスを提供する図書取次所 2 館を有する図書館網により、図書館サービスを展開しています。また、子どもの読書活動には、子どもの発達段階に応じた幅広いサービスの展開が期待されるため、用途に合わせたブックリストの作成を行いました。
図書館や公民館、児童センターでは、発達段階や年齢層に合わせたおはなし会や本の紹介を行いました。また、図書館では新規の読み聞かせボランティアを養成するボランティア養成講座も開催し、地域のボランティアと協力して事業を実施しました。市内小中学校では、地域のボランティアによる読み聞かせも実施しました。
児童センターの図書室では鴻巣市ひなちゃん子育て応援基金を活用し、資料の充実に努めています。
「図書館を知ることが読書活動にもつながる」と考え、図書館では図書館見学や職場体験、ボランティア体験の受入拡充に努めました。また、距離的要因等で図書館見学ができない学校にはスライドを活用した図書館の案内を授業中に実施するなど、子どもの興味に視点を置いた活動に努めました。

【課題】

・図書館等の事業の充実について

定例おはなし会等は、新型コロナウイルス感染症の影響により一時中止しましたが、令和3年度から徐々に再開しました。今後も、子どもの発達段階に応じたサービスを展開し、読書活動の拠点となるよう図書館のサービスはもとより、来館者を増やしていくためには、来館のきっかけとなるような事業を実施する必要があります。また、図書館では施設利用が比較的少ない小学校高学年向け、中学生向け、高校生向けの事業を実施することが課題です。

・公民館図書室について

本市には公民館図書室が6館あり図書館サービスを提供していますが、図書室の構成資料が古くなっています。図書室の資料の更新を進め、市立図書館による出張展示を活用し、子どもが本を手に取りやすい環境づくりが必要です。

・ボランティアについて

地域のボランティアは図書館や学校、児童センターで読み聞かせを行う等、地域の読書活動を充実するために大きな役割を果たしています。読み聞かせ講座を開くなどボランティアのスキルアップ、新規ボランティアの養成を支援し、ボランティアと連携していくことが必要です。

③学校等における子ども読書活動の推進

保育所や幼稚園、子育て支援センターでは、発達の段階や年齢層に合わせた絵本の読み聞かせを行いました。

放課後子ども教室（＊6）では、学校ごとに読み聞かせを実施し、放課後児童クラブ（＊7）では鴻巣市ひなちゃん子育て応援基金を活用し図書資料の充実に努めました。

小中学校では「朝読書（＊8）」「読書タイム」「読み聞かせ」の時間を設け、読書機会の提供や読書の動機づけにつながる取組、読書習慣を身に付ける取組を行いました。各教科の授業においては、調べ学習等学校図書館や図書館を利用して多様な学習活動が展開されています。

人材については、全校に司書教諭または学校図書館教育担当がおり、図書館に関する専門的な知識を持った学校図書館支援員（＊9）も配置されています。学校図書館支援員は司書教諭等と連携をしながら、児童生徒の成長段階や各学校のニーズに応じ、学校での読書活動の充実に向けてさまざまな支援・取組を行っています。児童生徒

が本を手に取りやすい館内掲示や配架の工夫を行う等、その支援・取組は図書館利用者数の増加につながっています。

学校図書館支援員の他にも、児童生徒による図書委員会が中心となった展示、図書委員会が主催するイベントの企画・運営も行われています。

また、図書館の団体貸出（調べる学習用、朝読書用資料等）も活用し、「いつでも手に届く本」の配置に積極的に取り組んできました。団体貸出本は主に朝読書や休み時間、学校の授業にも活用されています。

読書活動に支援が必要な子どもに対しては、学校図書館支援員や司書教諭等によるレファレンスの補助を行い、本に触れる機会の充実に努めています。

新型コロナウイルス感染症の影響により一時事業が中止となりましたが、図書館が学校等に対してどのような支援ができるのか、また、学校が図書館に対してどのような支援を求めているのか相互に把握し、コロナ禍においても継続可能な支援について検討した結果、学校支援の幅が広がりました。

【課題】

・学校について

小中学生の年間読書冊数は減少しているため、読書の動機づけの新たな展開が必要です。また、全国的に高校生の不読率（＊10）が問題になっているため、興味関心を引く図書の情報を提供する必要があります。

児童生徒が読書に親しむ心を養い、読書習慣を身に付けることが求められています。今後も児童生徒が様々な図書に触れる機会を確保し、組織的に子どもの読書活動の推進に継続的に取り組むことが必要です。

・図書館等との連携について

出張授業を継続的に実施するにあたり、図書館職員のブックトーク（＊11）等の研修を行い、スキルアップを図っていく必要があります。また、団体貸出の利用を増やすため、図書館資料の充実を図り、団体貸出を利用していない学校への働きかけを行い、図書館資料の有効活用を進めいく必要があります。

川里図書館では令和6年5月から点字図書や布絵本（＊12）など多様に配慮された資料を集めて展示する「りんごの棚（＊13）」をはじめました。特別な支援を必要とする子どもたちへの読書活動の推進として有効ですので、今後は更なる資料の充実に努め、全館に展開していく必要があります。

（2）子どもの読書活動に関する啓発・広報の推進

図書館では、子どもの読書に関わる保護者や読み聞かせボランティア向け講座を実施し、読み聞かせの大切さを伝えました。

保育所、公民館、図書館、幼稚園、小・中学校ではポスター掲示や各種イベントを通じて、「子ども読書の日（＊14）」（4 月23日）や「こどもの読書週間（＊15）」の周知に努めました。テーマを定めた展示や本のお楽しみ袋（＊16）、ブックトーク等関連した事業を行うなどし、子どもの読書活動の啓発を積極的に実施してきました。

市の子育てアプリやホームページに読み聞かせや紙芝居のイベント情報を掲載し、保護者等への情報発信に努めました。

【課題】

子ども読書活動の意義を地域の大人に広げるためには、参加しやすい条件で講座等を実施することが必要です。また、より効果的に多くの人に広報するためには、SNSやホームページ等情報伝達の手段について工夫する必要があります。

（3）子どもが読書に親しむ推進体制の充実

子どもの読書活動を推進するためには、各関係団体との協働・連携が不可欠です。

関係機関との意見交換等を継続し、子どもたちに読書に親しみやすい環境を提供できるように努めました。

市では第1次計画の推進状況を判断する資料として、市内の小学校2年生・5年生及び中学校2年生の児童生徒を対象に、子どもの読書アンケート調査を実施しました。アンケートは第1次計画の成果指標の推移を確認するため、策定時のアンケートより成果指標に関係する設問を抜粋して行い、アンケートの調査結果は関係各課、関係機関と情報共有してきました。

【課題】

子どもの読書活動を総合的に推進するためには、家庭や地域、学校が相互に連携し、それぞれの立場から協力できる支援体制の整備に努める必要があります。そのために学校、図書館、教育委員会や市の関連部局、子どもの読書活動を推進しているボランティア活動団体をはじめとする民間団体等と情報交換できる機会を整備することが必要です。

第１次計画の総括と今後の方向性

小学校高学年や中高生への読書機会の提供が少ないこと、社会の変化にあった多様な資料の充実、読書活動に関わる人材の育成、子どもの読書に関する関係各課や地域の連携等、課題も残りました。これらの課題を解決するためには、積極的な図書館及び学校図書館の活用が必要です。

近年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、図書館の利用を制限した経緯がありました。今後、このような事態に遭遇した際に、どのようにして子どもたちに本を届けるか、どのようにして読書の楽しみを発信するかが課題となります。

図書館では令和４年１月から非来館型の図書館サービスである電子図書館（＊17）を導入しました。また、小中学校では、児童生徒にタブレット端末が普及しました。読書のみに関わらず、図書館の利用の仕方など ICT を活用した調査・研究が必要となります。

数値目標達成状況

◆成果目標１ 本を読むのが好きな子どもの割合◆

※子ども読書活動アンケートに「好き」「どちらかといえば好き」と回答した割合

令和元年度（基準値）	令和2年度		令和6年度	目標値（令和6年度）
86.9%	82.7%	→	84.5%	88.9%

◆成果目標2 １か月に１冊も本を読まなかった子どもの割合（不読率）

令和元年度（基準値）	令和2年度		令和6年度	目標値（令和6年度）
9.4%	4.4%	→	9.4%	7.0%

◆成果指標3 子ども１人あたりの児童書貸出冊数◆

※市内0～14歳の人口（4月１日現在）１人あたりの市立図書館及び公民館図書室等の児童書年間貸出数

平成 30 年度（基準値）	令和元年度		令和5年度	目標値（令和6年度）
17.2 冊	18.5 冊	→	19.2 冊	18.2 冊

※年間貸出数が年度途中で算出できないため前年度の統計を使用

（参考：鴻巣市人口統計・鴻巣市立図書館利用統計）

2 子ども読書活動のアンケート調査結果

鴻巣市では、市内の子どもたちの読書活動の現状を把握するため、「鴻巣市子どもの読書アンケート」を実施しました。

(1) 市内に通う小学校2年生・5年生、中学校2年生、高校2年生へのアンケート結果

【調査概要】 調査期間:令和6年6月~7月(小・中)、9 月(高校)

調査対象:市内の学校に通う小学校2・5年生、中学校2年生、
市内の県立高等学校に通う高校 2 年生

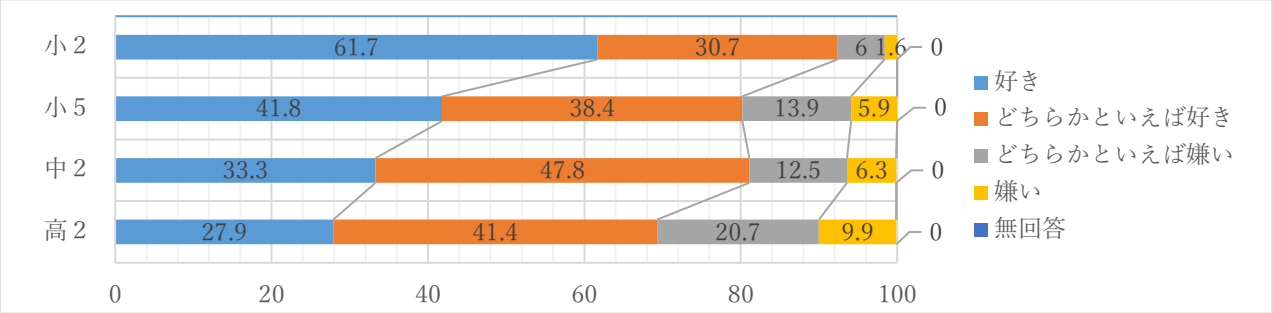
調査方法:各学校の該当学年より任意の1クラスが回答

調査回答数:小学校2年生 381 人、小学校5年生 409 人、
中学校2年生 255 人、高校 2 年生 111人 合計 1,156 人

【回答結果】

質問1 あなたは本を読むことが好きですか

	小2		小5		中2		高2	
1 好き	235	61.7%	171	41.8%	85	33.3%	31	27.9%
2 どちらかといえば好き	117	30.7%	157	38.4%	122	47.8%	46	41.4%
3 どちらかといえば嫌い	23	6.0%	57	13.9%	32	12.5%	23	20.7%
4 嫌い	6	1.6%	24	5.9%	16	6.3%	11	9.9%
m 無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

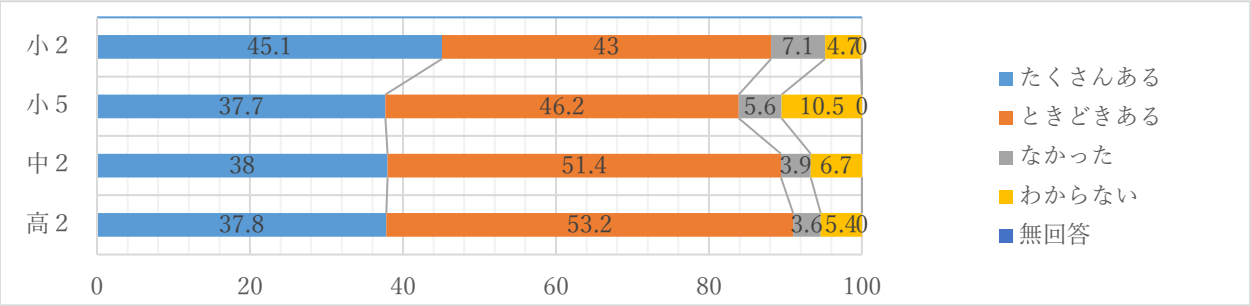


「好き」「どちらかといえば好き」の割合は、小学校2年生 92.4%、5年生 80.2%、中学校2年生が 81.1%と高い値となっていますが、高校2年生では 69.3%と低くなっています。小学校2年生、小学校5年生については前回調査時より数値が減少しましたが、中学校2年生については増加しました。

成長するに応じて興味の範囲も広がり、本を読むことが好きと回答する割合は減少しています。

質問2 あなたは、誰かに本を読んでもらったり、昔ばなしを聞いたりしたことがありますか。

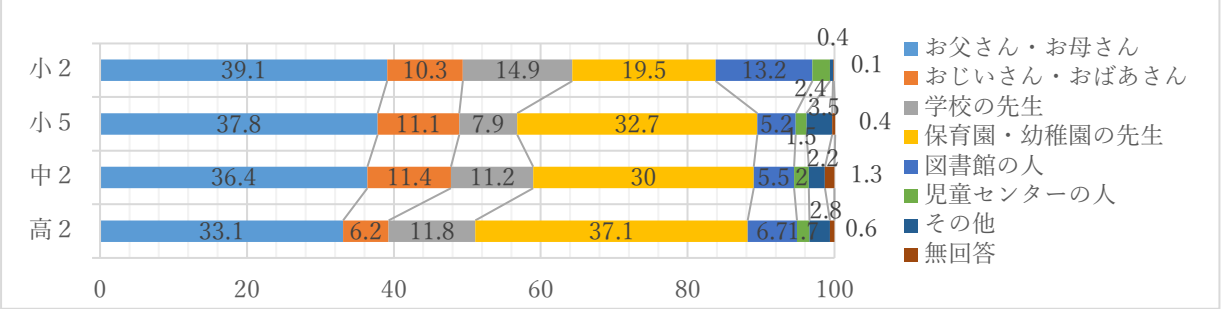
	小2		小5		中2		高2	
1 たくさんある	172	45.1%	154	37.7%	97	38.0%	42	37.8%
2 ときどきある	164	43.0%	189	46.2%	131	51.4%	59	53.2%
3 なかった	27	7.1%	23	5.6%	10	3.9%	4	3.6%
4 わからない	18	4.7%	43	10.5%	17	6.7%	6	5.4%
m 無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%



読み聞かせを受けた経験については、どの学年でも８割以上の子どもが「ある」または「ときどきある」と答えており、どの世代でも読み聞かせの場が充実していたことを表しています。

質問3 誰が本を読んだり、昔ばなしを話してくれたりしましたか（2つまで）

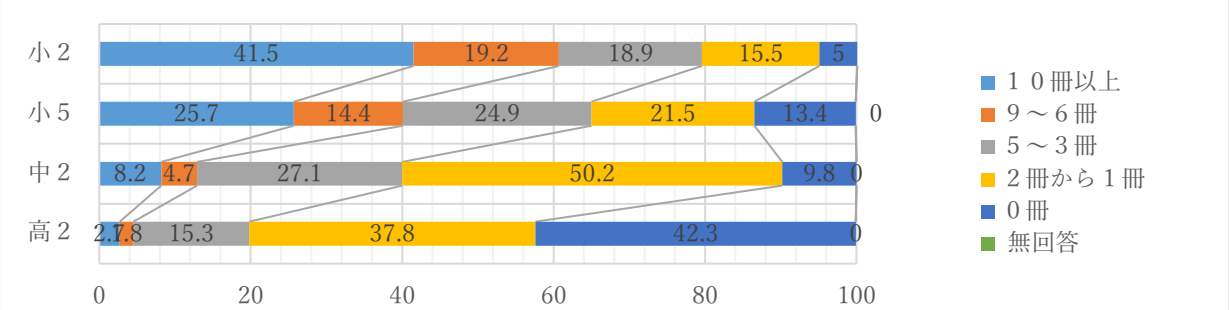
	小2		小5		中2		高2	
1 お父さん・お母さん	263	39.1%	259	37.8%	166	36.4%	59	33.1%
2 おじいさん・おばあさん	69	10.3%	76	11.1%	52	11.4%	11	6.2%
3 学校の先生	100	14.9%	54	7.9%	51	11.2%	21	11.8%
4 保育園・幼稚園の先生	131	19.5%	224	32.7%	137	30.0%	66	37.1%
5 図書館の人	89	13.2%	36	5.2%	25	5.5%	12	6.7%
6 児童センターの人	16	2.4%	10	1.5%	9	2.0%	3	1.7%
7 その他	3	0.4%	24	3.5%	10	2.2%	5	2.8%
m 無回答	1	0.1%	3	0.4%	6	1.3%	1	0.6%



どの年代でも、「お父さん・お母さん」や「保育園・幼稚園の先生」と答えた子どもが多く、家庭や子育て支援の場で広く読み聞かせが行われていることがうかがえます。

質問4 あなたは、1か月に何冊の本を読みましたか

	小2		小5		中2		高2	
1 10冊以上	158	41.5%	105	25.7%	21	8.2%	3	2.7%
2 6~9冊	73	19.2%	59	14.4%	12	4.7%	2	1.8%
3 3~5冊	72	18.9%	102	24.9%	69	27.1%	17	15.3%
4 1~2冊	59	15.5%	88	21.5%	128	50.2%	42	37.8%
5 0冊	19	5.0%	55	13.4%	25	9.8%	47	42.3%
m 無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

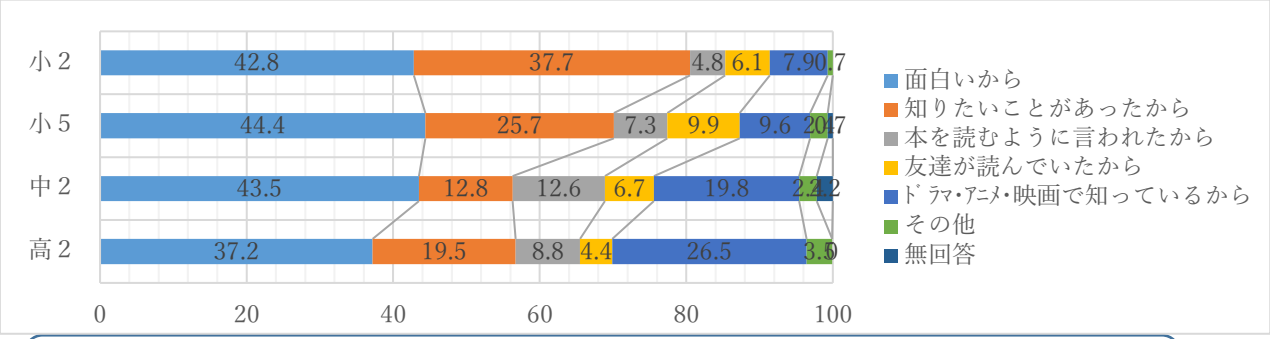


学校で行われている朝読書での取組もあり本を読む児童生徒の割合は高くなっています。特に低学年を中心に読書が盛んな一方で、学年が上がるにつれて全く本を読まない割合も増えてきています。

高校生では 4 割以上が全く本を読んでいない状況であり、不読率（＊〇〇）が高くなっています。このことから、小さい頃の読書習慣が定着せずに読書離れを起こすこどもが多いことがうかがえます。不読率低減のためには、読みたいと思わせるような本の購入と積極的な広報活動が必要となると考えられます。

質問5（質問4で1~4を選んだ人）本を読むのはどうしてですか（2つまで）

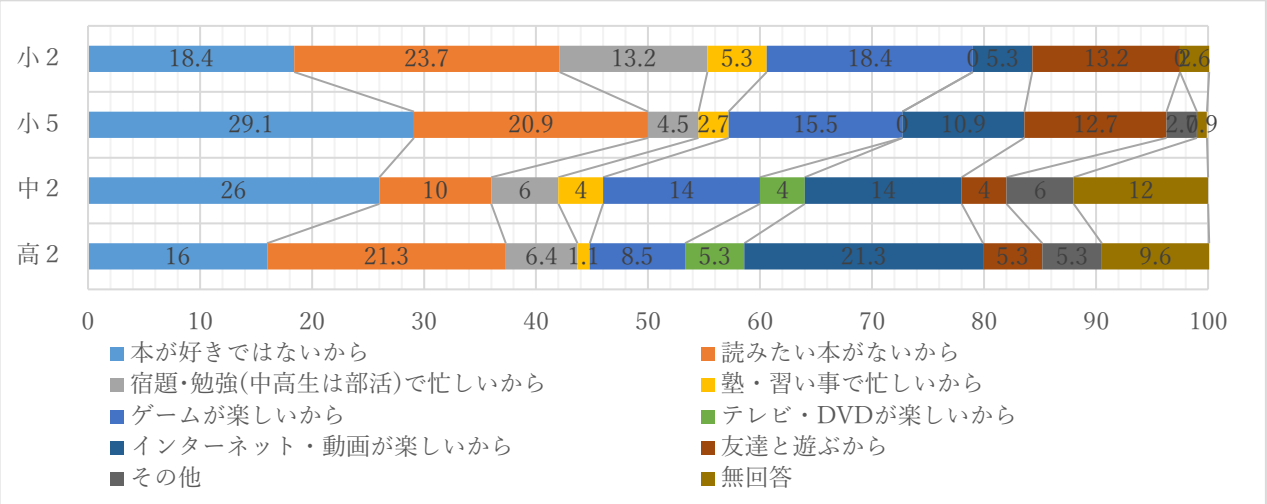
	小2		小5		中2		高2	
1 面白いから	310	42.8%	314	44.4%	200	43.5%	42	37.2%
2 知りたいことがあったから	273	37.7%	182	25.7%	59	12.8%	22	19.5%
3 本を読むように言われたから	35	4.8%	52	7.3%	58	12.6%	10	8.8%
4 友だちが読んでいたから	44	6.1%	70	9.9%	31	6.7%	5	4.4%
5 ドラマ･アニメ･映画で知っているから	57	7.9%	68	9.6%	91	19.8%	30	26.5%
6 その他	5	0.7%	17	2.4%	11	2.4%	4	3.5%
m 無回答	0	0.0%	5	0.7%	10	2.2%	0	0.0%



本を読む理由について、全学年において「面白いから」の理由が多くなっています。小学校２年生、小学校５年生では「知りたいことがあったから」が、中学校２年生、高校２年生では「ドラマ・アニメ・映画で知っているから」の理由が次に多くなっています。ドラマ・アニメ・映画の影響は年齢が高くなるにつれて大きくなっていることがわかります。

質問6（質問4で5を選んだ人）本を読まなかったのはなぜですか（2つまで）

	小2		小5		中2		高2	
1 本が好きではないから	7	18.4%	32	29.1%	13	26.0%	15	16.0%
2 読みたい本がないから	9	23.7%	23	20.9%	5	10.0%	20	21.3%
3 宿題・部活（クラブ）で忙しいから	5	13.2%	5	4.5%	3	6.0%	6	6.4%
4 塾・習い事で忙しいから	2	5.3%	3	2.7%	2	4.0%	1	1.1%
5 ゲームが楽しいから	7	18.4%	17	15.5%	7	14.0%	8	8.5%
6 テレビ・DVD が楽しいから	0	0.0%	0	0.0%	2	4.0%	5	5.3%
7 インターネット・動画が楽しいから	2	5.3%	12	10.9%	7	14.0%	20	21.3%
8 友達と遊ぶから	5	13.2%	14	12.7%	2	4.0%	5	5.3%
9 その他	0	0.0%	3	2.7%	3	6.0%	5	5.3%
m 無回答	1	2.6%	1	0.9%	6	12.0%	9	9.6%

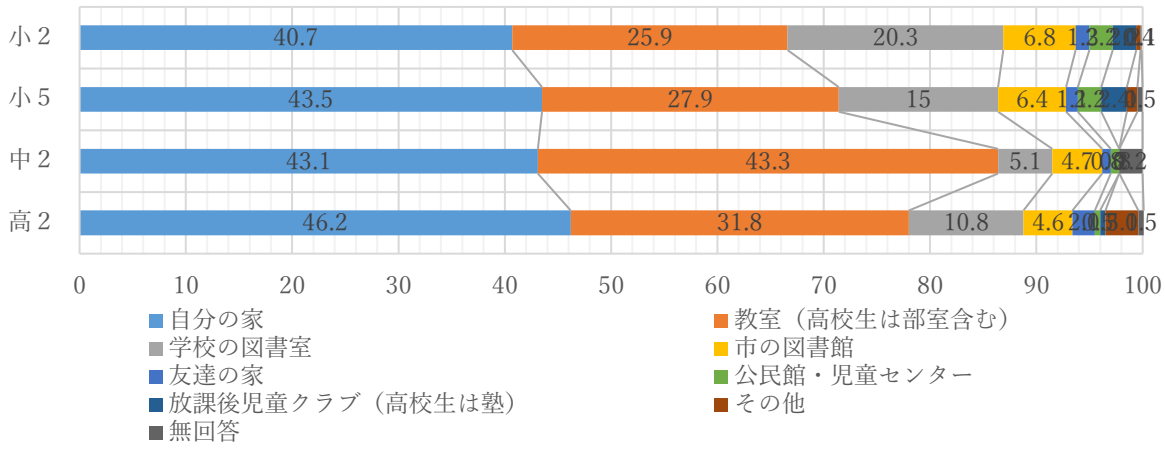


本を読まない理由については、「本が好きではない」と「読みたい本がない」が主な理由となっています。その他に低学年では「ゲームが楽しいから」の割合が多く、高学年になると「インターネット・動画が楽しいから」という割合も多くなってきています。

読書の楽しさを理解しているこどもたちが、年齢が上がるにつれて読書離れが進んでしまっている現状を改善する取組、図書館の利用が少ない小学校高学年、中高生を取り込む取組が必要となることが考えられます。

質問7 あなたは、本を読むとき、どこで読むことが多いですか【2つまで】

	小2		小5		中2		高2	
1 自分の家	310	40.7%	356	43.5%	220	43.1%	90	46.2%
2 教室 （高校性は部室含む）	197	25.9%	228	27.9%	221	43.3%	62	31.8%
3 学校の図書館	155	20.3%	123	15.0%	26	5.1%	21	10.8%
4 市の図書館	52	6.8%	52	6.4%	24	4.7%	9	4.6%
5 友だちの家	10	1.3%	9	1.1%	4	0.8%	4	2.1%
6 公民館･児童センター	17	2.2%	18	2.2%	4	0.8%	1	0.5%
7 放課後児童クラブ （高校生は塾に変更）	17	2.2%	20	2.4%	0	0.0%	1	0.5%
8 その他	3	0.4%	8	1.0%	0	0.0%	6	3.1%
m 無回答	1	0.1%	4	0.5%	11	2.2%	1	0.5%

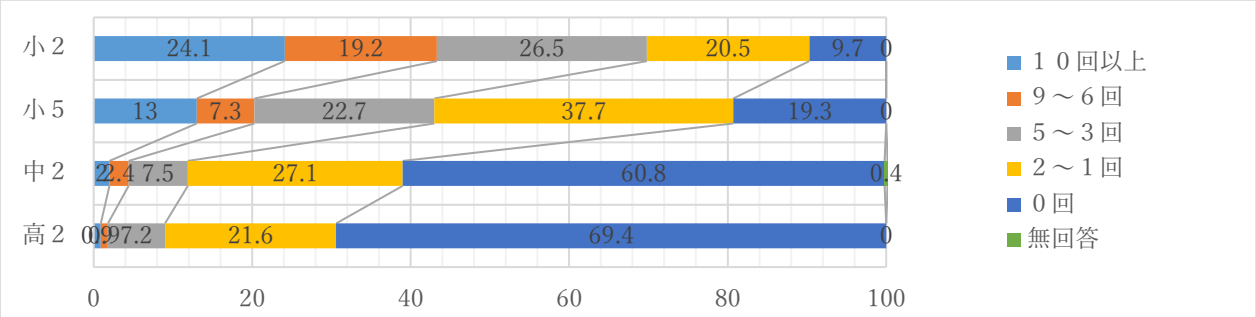


「自分の家」「教室」と答えた割合が多く、家庭での読書、朝読書などで教室での読書習慣が定着していると考えられます。小学生では「学校の図書館」の割合も多く、児童に学校図書館が活用されている様子が伺えます。

反対に「市の図書館」「公民館・児童センター」と答えたこどもは少なく、図書館とオンラインで繋がっている公民館図書室もあまり利用されていないことが分かります。

質問8 あなたは、1か月にどのくらい学校の図書館へ行きますか

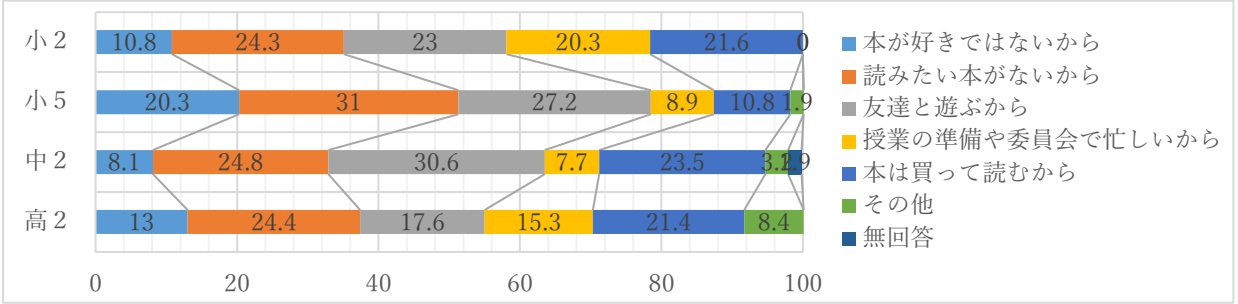
	小2		小5		中2		高2	
1 10回以上	92	24.1%	53	13.0%	5	2.0%	1	0.9%
2 6~9回	73	19.2%	30	7.3%	6	2.4%	1	0.9%
3 3~5回	101	26.5%	93	22.7%	19	7.5%	8	7.2%
4 1~2回	78	20.5%	154	37.7%	69	27.1%	24	21.6%
5 0回	37	9.7%	79	19.3%	155	60.8%	77	69.4%
m 無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%



学年が上がるにつれて学校の図書室へ行く回数が減少しており、中学校２年生では、「０回」の割合が半数以上、高校２年生では７割近くとなっています。背景として、各学校の学校図書館の開室状況や、行事等により読書活動に差が出ていることがうかがえます。

質問9 （質問8で5を選んだ人）図書室へ行かないのは、なぜですか（2つまで）

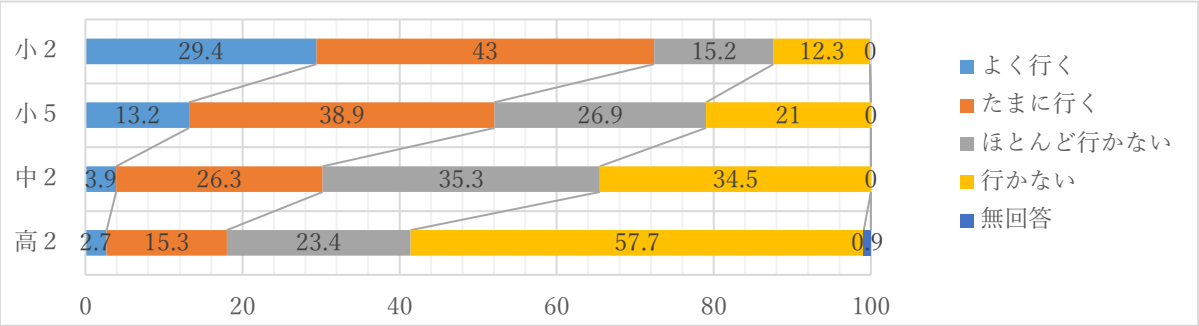
	小2		小5		中2		高2	
1 本が好きではないから	8	10.8%	32	20.3%	25	8.1%	17	13.0%
2 読みたい本がないから	18	24.3%	49	31.0%	77	24.8%	32	24.4%
3 友だちと遊ぶから	17	23.0%	43	27.2%	95	30.6%	23	17.6%
4 授業の準備や委員会で忙しいから	15	20.3%	14	8.9%	24	7.7%	20	15.3%
5 本は買って読むから	16	21.6%	17	10.8%	73	23.5%	28	21.4%
6 その他	0	0.0%	3	1.9%	10	3.2%	11	8.4%
m 無回答	0	0.0%	0	0.0%	6	1.9%	0	0.0%



図書室に行かない子の理由として、「本が好きではないから」ではなく、どの学年も「友だちと遊ぶから」「本は買って読むから」の割合が多く、図書室で本を選ぶ習慣がないのがうかがえます。また、「読みたい本がないから」の理由がどの学年でも割合が多く、こどもが興味を持つような蔵書構成、行事開催が必要となっていることが伺えます。

質問 10 あなたは市の図書館へ行きますか

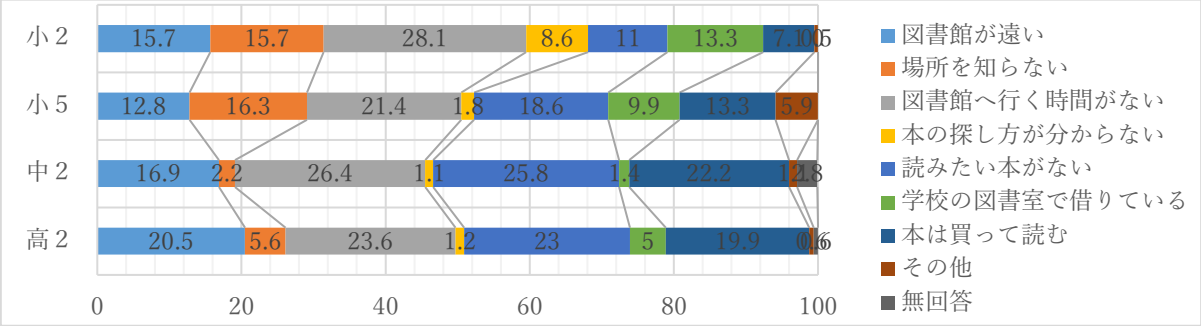
	小2		小5		中2		高2	
1 よく行く	112	29.4%	54	13.2%	10	3.9%	3	2.7%
2 たまに行く	164	43.0%	159	38.9%	67	26.3%	17	15.3%
3 ほとんど行かない	58	15.2%	110	26.9%	90	35.3%	26	23.4%
4 行かない	47	12.3%	86	21.0%	88	34.5%	64	57.7%
m 無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%



小学校２年生、５年生では「たまに行く」が「ほとんど行かない」の割合を超えていますが、中学校２年生、高校２年生ではその割合は逆転します。年齢が高くなるにつれて「行かない」の割合が高くなっています。

質問11 図書館へ行かないのはなぜですか（2つ選択）

	小2		小5		中2		高2	
1 図書館が遠い	33	15.7%	50	12.8%	60	16.9%	33	20.5%
2 場所を知らない	33	15.7%	64	16.3%	8	2.2%	9	5.6%
3 図書館へ行く時間がない	59	28.1%	84	21.4%	94	26.4%	38	23.6%
4 本の探し方が分からない	18	8.6%	7	1.8%	4	1.1%	2	1.2%
5 読みたい本がない	23	11.0%	73	18.6%	92	25.8%	37	23.0%
6 学校の図書室で借りている	28	13.3%	39	9.9%	5	1.4%	8	5.0%
7 本は買って読む	15	7.1%	52	13.3%	79	22.2%	32	19.9%
8 その他	1	0.5%	23	5.9%	4	1.1%	1	0.6%
m 無回答	0	0.0%	0	0.0%	10	2.8%	1	0.6%

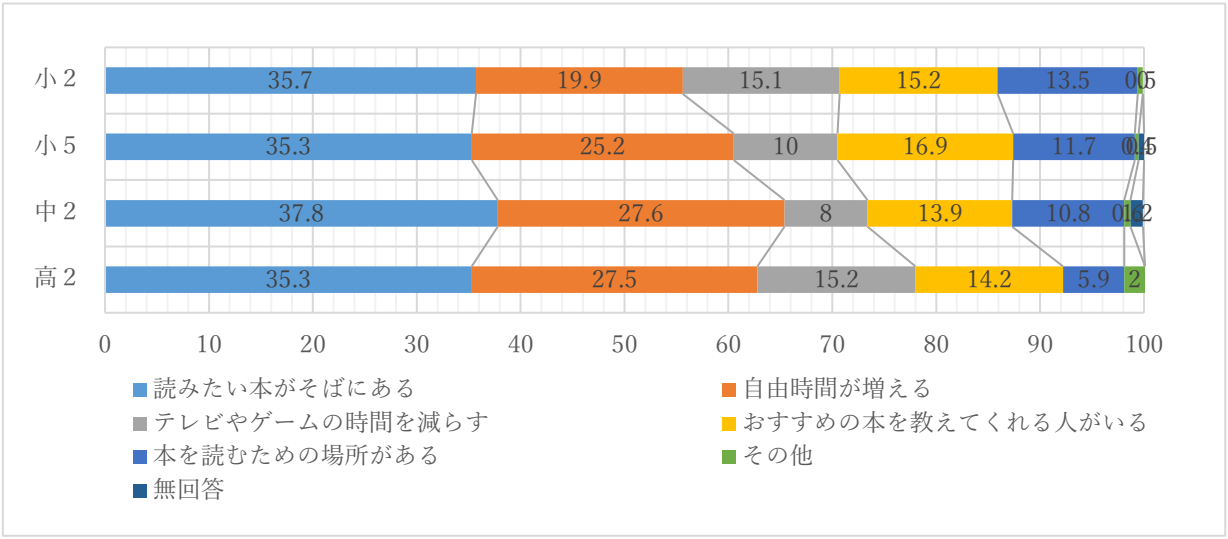


図書館に行かない理由として、全体に「図書館が遠い」「図書館へ行く時間がない」の割合が多く、学年が上がるにつれて「読みたい本がない」「本は買って読む」の割合が増えています。

図書館の蔵書にあまり関心がなく、図書館を利用せずに読書をしている子どもが多いことがうかがえます。

質問12 どうすればもっと本が読めると思いますか（2つまで）

	小2		小5		中2		高2	
1 読みたい本がそばにある	272	35.7%	289	35.3%	193	37.8%	72	35.3%
2 自由時間が増える	152	19.9%	206	25.2%	141	27.6%	56	27.5%
3 テレビやゲームの時間を減らす	115	15.1%	82	10.0%	41	8.0%	31	15.2%
4 おすすめの本を教えてくれる人がいる	116	15.2%	138	16.9%	71	13.9%	29	14.2%
5 本を読むための場所がある	103	13.5%	96	11.7%	55	10.8%	12	5.9%
6 その他	4	0.5%	3	0.4%	3	0.6%	4	2.0%
m 無回答	0	0.0%	4	0.5%	6	1.2%	0	0.0%

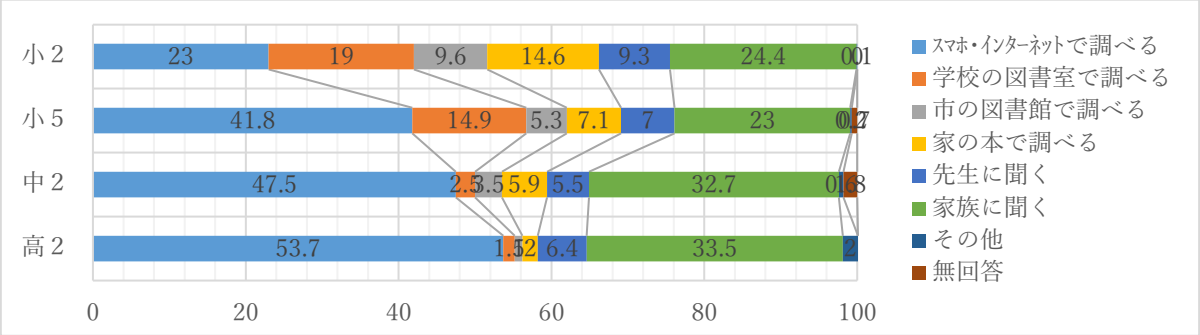


どの学年も「読みたい本がそばにある」「自由時間が増える」「おすすめの本を教えてくれる」の順に割合が多く、その他の理由は、ほぼ同じぐらいの割合となっています。

司書や司書教諭等、専門職からの助言・支援が必要とされていることが結果から伺えます。こどもたちが読書をしたいと思った場面で本に触れることができる環境づくりが課題となります。

質問 13 わからないことや知りたいことがあった時、どうやって調べますか（2つまで）

	小2		小5		中2		高2	
1 スマホ・インターネットで調べる	175	23.0%	342	41.8%	242	47.5%	109	53.7%
2 学校の図書室で調べる	145	19.0%	122	14.9%	13	2.5%	3	1.5%
3 市の図書館で調べる	73	9.6%	43	5.3%	18	3.5%	2	1.0%
4 家の本で調べる	111	14.6%	58	7.1%	30	5.9%	4	2.0%
5 先生に聞く	71	9.3%	57	7.0%	28	5.5%	13	6.4%
6 家族に聞く	186	24.4%	188	23.0%	167	32.7%	68	33.5%
7 その他	1	0.1%	2	0.2%	3	0.6%	4	2.0%
m 無回答	0	0.0%	6	0.7%	9	1.8%	0	0.0%



学年が上がるにつれて「スマホ・インターネットで調べる」の割合が多く、次に「家族に聞く」の割合が多くなっています。本を使って調べる割合については、中学校２年生、高校２年生が大幅に減っています。

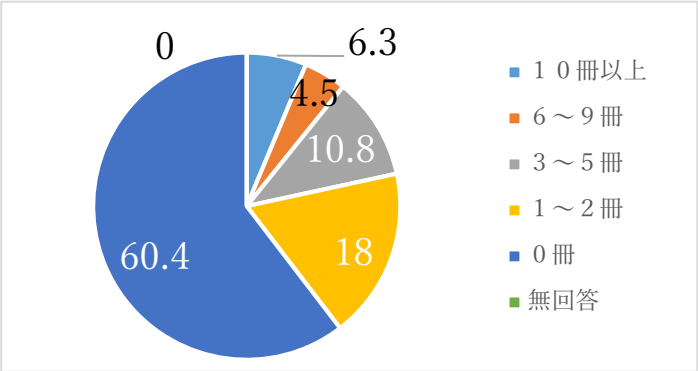
これからの情報社会において、インターネットの情報だけではなく、本を使って収集した情報が情報の取捨選択において大事な選択肢のひとつとなることを伝えていくこと、こどもたちが情報リテラシーを身につけていく必要があります。

【高校生のみ】追加質問：電子書籍の利用状況について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大時、多くの公共施設が休館となる中で、図書館も休館とならざるをえない事態となり、読書活動を止めない方法の一つとして電子書籍が着目され、多くの公立図書館で導入されました。鴻巣市では令和4年1月から図書館システムと連携した電子図書館システムを導入しサービスを開始しました。高校生のアンケートでは電子書籍の利用状況、期待されている機能について伺っています。

質問 14　1か月にパソコン、スマートフォンで読める本（電子書籍）を何冊くらい読みましたか

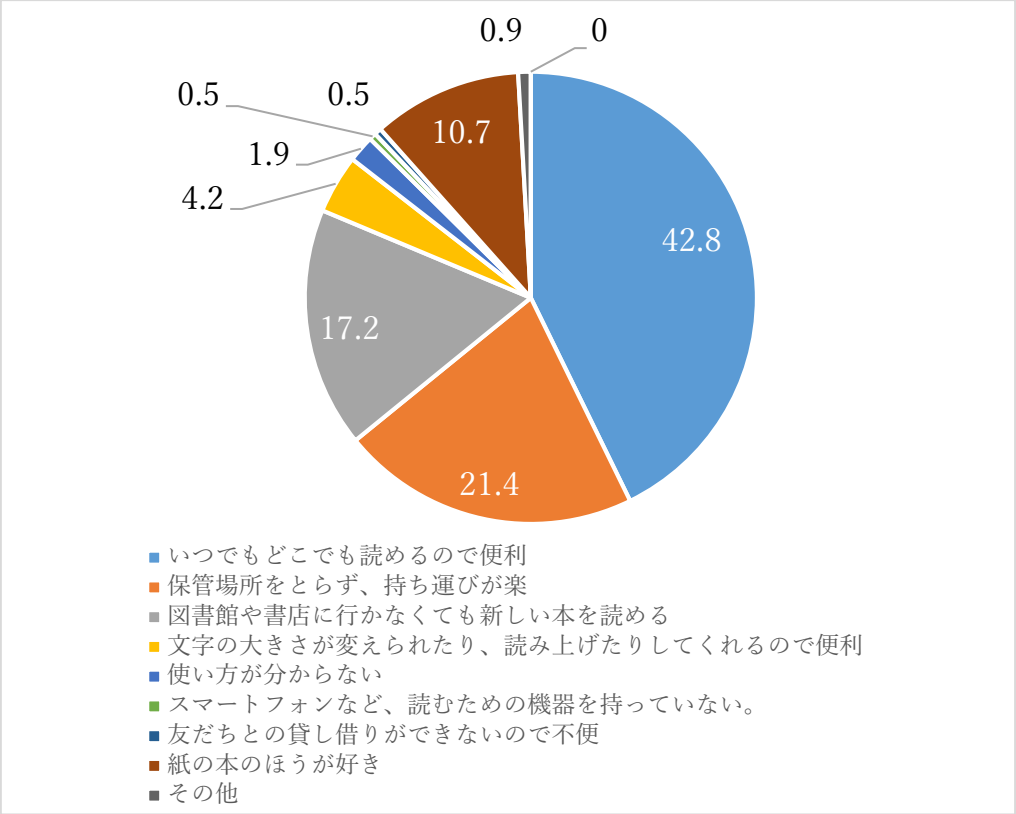
	高2	
1 10冊以上	7	6.3%
2 6~9冊	5	4.5%
3 3~5冊	12	10.8%
4 1~2冊	20	18.0%
5 0冊	67	60.4%
m 無回答	0	0.0%



４割近くの生徒が電子書籍を読んだことがあることがわかりましたが、反対に半数以上の生徒は利用したことがない状況であることがアンケートの結果からわかりました。

質問 15　パソコン、スマートフォンで読める本（電子書籍）についてどう思いますか（2つまで）

	高2	
1 いつでもどこでも読めるので便利	92	42.8%
2 保管場所をとらず、持ち運びが楽	46	21.4%
3 図書館や書店に行かなくても新しい本を読める	37	17.2%
4 文字の大きさを変えられたり、読み上げたりしてくれるので便利	9	4.2%
5 使い方が分からない	4	1.9%
6 スマートフォンなど、読むための機器を持っていない	1	0.5%
7 友だちとの本の貸し借りができないので不便	1	0.5%
8 紙の本のほうが好き	23	10.7%
9 その他	2	0.9%
m 無回答	0	0.0%



「いつでもどこでも読めるので便利」「保管場所をとらず、持ち運びが楽」と回答した生徒が６割以上を占めています。電子書籍の特性についてよく理解されていることがアンケートの結果から伺えます。

公立図書館で導入した電子図書館を活用してもらえるように PR していくことが大事になると考えられます。

（2）子育て支援センターを利用した未就学児の保護者へのアンケート結果

【調査概要】　調査期間：令和6年6月～7月

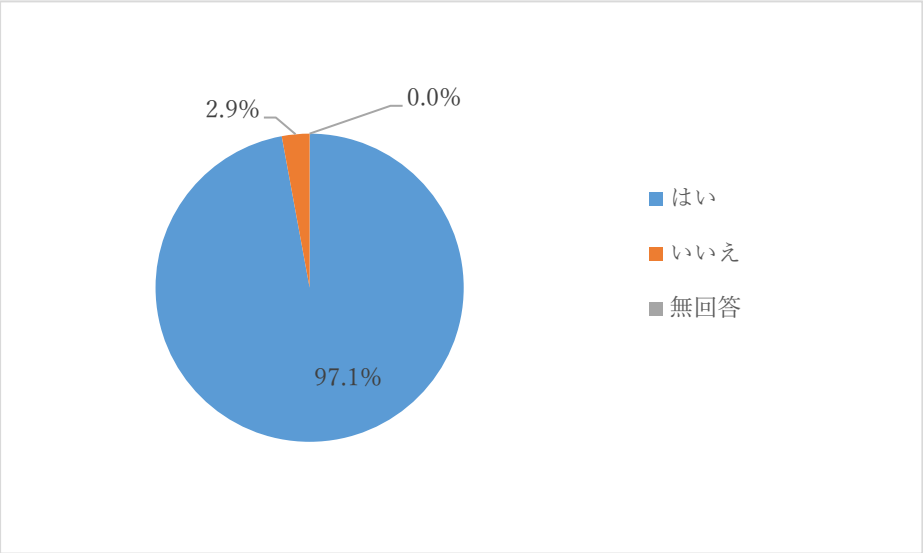
調査対象：期間中に子育て支援センターおよび
川里ひまわり保育園子育て支援センターを利用した保護者

調査方法：利用者（保護者）へ調査票を渡して回答を依頼

調査回答数：　68 人

問1　ご家庭で子どもたちに本の読み聞かせをしていますか

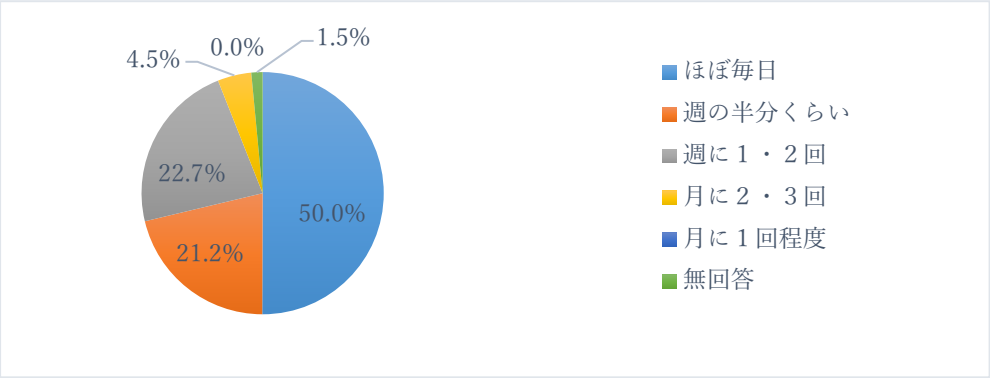
1 はい	66	97.1%
2 いいえ	2	2.9%
m 無回答	0	0%



9割以上の保護者がご家庭で読み聞かせをしていると回答しており、読み聞かせが多くの家庭で行われています。

問2（1）読み聞かせの頻度を教えてください

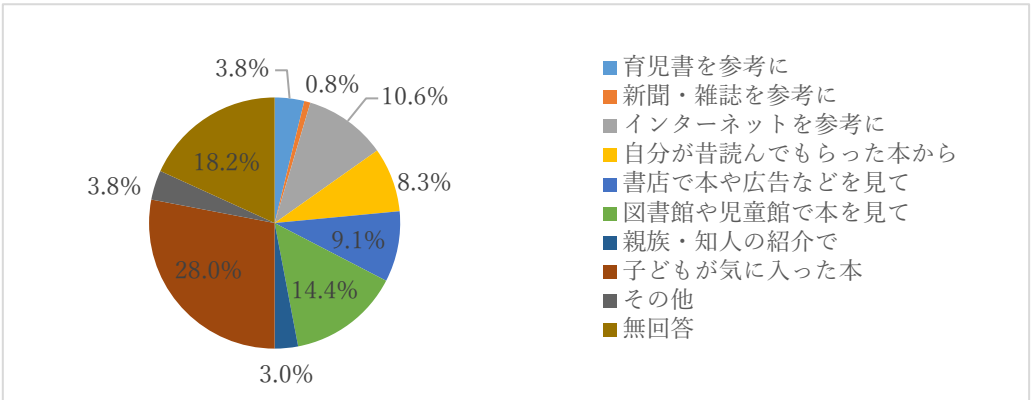
1 ほぼ毎日	33	50.0%	4 月に2･3回	3	4.5%
2 週の半分くらい	14	21.2%	5 月に1回程度	0	0.0%
3 週に1･2回	15	22.7%	m 無回答	1	1.5%



読み聞かせを「ほぼ毎日」行っている家庭が半数であり、次に「週に1･2回」、「週の半分」の割合が多くなっており、家庭での読み聞かせが盛んに行われていることが分かります。

問2（2） 日頃、読み聞かせをする本はどのように選んでいますか（2つまで）

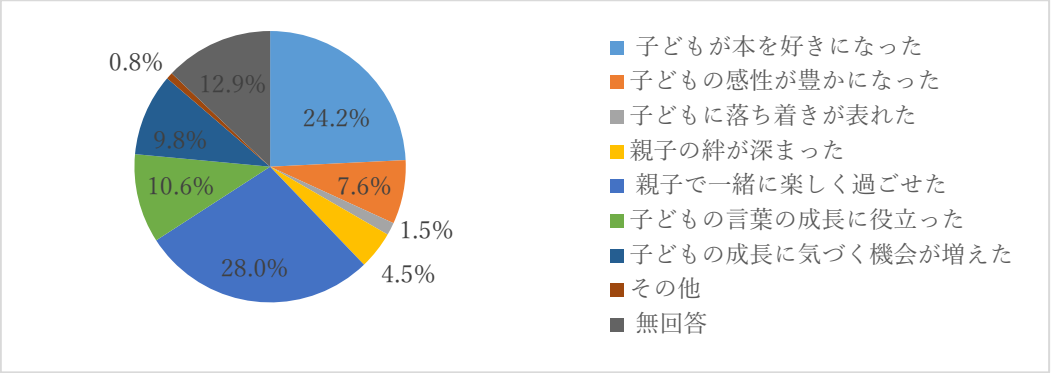
1 育児書を参考に	5	3.8%	6 図書館や児童館で本を見て	19	14.4%
2 新聞･雑誌を参考に	1	0.8%	7 親族･知人の紹介で	4	3.0%
3 インターネットを参考に	14	10.6%	8 子どもが気に入った本	37	28.0%
4 自分が昔読んでもらった本から	11	8.3%	9 その他	5	3.8%
5 書店で本や広告などを見て	12	9.1%	m 無回答	24	18.2%



読み聞かせをする本は「子どもが気に入った本」を選ぶ方が最も多く、次に「図書館や児童館で本を見て」「インターネットを参考に」「書店で本や広告などを見て」が続き、全体的に情報よりも現物を見て選ぶ傾向にあります。

問2（3） 読み聞かせをして良かったと思う事を教えてください（2つまで）

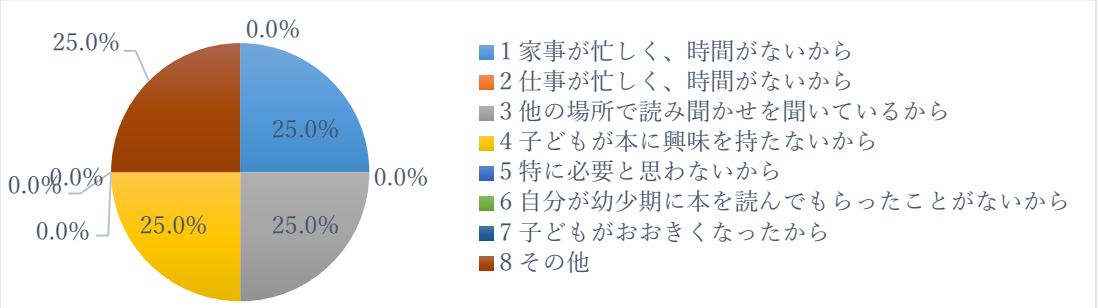
1　子どもが本を好きになった	32	24.2%	6　子どもの言葉の成長に役立った	14	10.6%
2　子どもの感性が豊かになった	10	7.6%	7　子どもの成長に気づく機会が増えた	13	9.8%
3　子どもに落ち着きが表れた	2	1.5%	8　その他	1	0.8%
4　親子の絆が深まった	6	4.5%	m　無回答	17	12.9%
5　親子で一緒に楽しく過ごせた	37	28.0%			



「親子で一緒に楽しく過ごせた」が最も多く、読み聞かせが子育ての大事なコミュニケーションの手段となっています。また「子どもが本を好きになった」が次に多く、読み聞かせの有無が、子どもが本好きになる要因の一つになっていることがわかります。

問3 読み聞かせをしない、またはしなくなった理由を教えてください（2つまで）

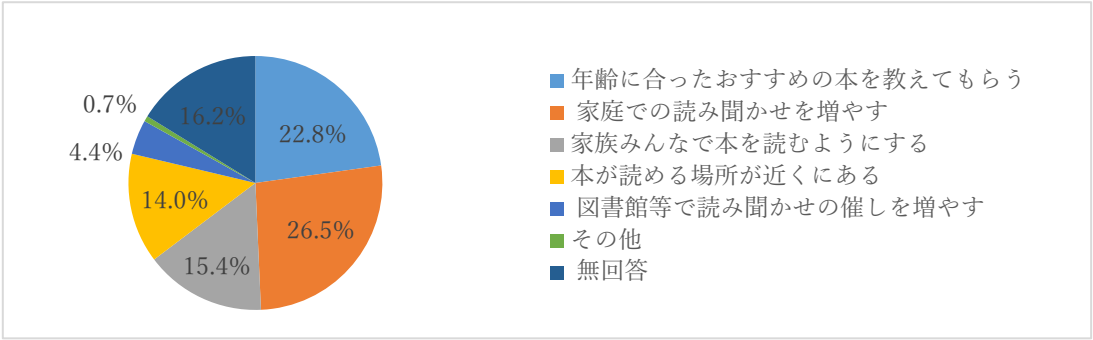
1 家事が忙しく、時間がないから	1	24.5%	6 自分が幼少期に本を読んでもらったことがないから	0	0.0%
2 仕事が忙しく、時間がないから	0	0.0%	7 子どもが大きくなったから	0	0.0%
3 他の場所で読み聞かせを聞いているから	1	24.5%	8 その他	1	24.5%
4 子どもが本に興味を持たないから	1	24.5%	m 無回答	0	0.0%
5 特に必要と思わないから	0	0.0%			



「家事が忙しく時間がない」「他の場所で読みきかせを聞いているから」「子どもが本に興味を持たないから」「その他」の理由が同数となっています。その他では「押しつけになって、本が嫌いになると困る」とあり、こどもの心情を大事にしようという考えのご意見がありました。

問4 子どもが本に興味をもってくれるにはどうすればいいと思いますか（2つまで）

1 年齢に合ったおすすめの本を教えてもらう	31	22.8%	5 図書館等で読み聞かせの催しを増やす	6	4.4%
2 家庭での読み聞かせを増やす	36	26.5%	6 その他	1	0.7%
3 家族みんなで本を読むようにする	21	15.4%	m 無回答	22	16.2%
4 本が読める場所が近くにある	19	14.0%			



「家庭での読み聞かせを増やす」が最も多く、次に「年齢に合ったおすすめの本を教えてもらう」が多くなっており、家庭の中だけでなく、本に関する情報を求めていることが分かります。

保護者へ向けて家庭での読み聞かせの重要性をお知らせするとともに、こどもと保護者が一緒に楽しめる本に関する情報を提供していく取組が求められます。

＊＊＊市内にある県立高等学校における取組＊＊＊

子どもの読書活動に関するアンケートの実施とあわせて、市内にある埼玉県立高等学校3校、鴻巣高等学校、鴻巣女子高等学校、吹上秋桜高等学校における現在の読書活動推進に関する取組について情報提供いただきました。

各校には図書担当教諭・学校司書が配置されていて、それぞれ読書活動の推進に関する取組を行っていますのでご紹介します。

◎図書室の利用を促進する取組

学校にある図書室の利用を促すため、各校では様々な取組を実施しています。図書委員として生徒自身が主体となって実施しているイベントもあります。

・学校図書館を活用した授業の実施
・新入生に対する図書館ガイダンス、図書館オリエンテーションの実施
・図書委員会主催のイベントの企画・運営を行い、学校図書館の利用し促進を図っている。

◎読書の啓発・広報に関する取組

各校では図書館に関する情報や新着本を紹介する情報誌（図書館だより、図書館ニュース）を作成しています。また、図書委員主体で本を紹介する POP を作成するなど、生徒が本を手に取りやすい環境づくりに取り組んでいます。

・図書委員が本の紹介・展示、おすすめ本のポップを作成し、生徒が本を手に取りやすい工夫をしている。
・「図書館だより」「ブックリスト」を作成、発行し啓発、広報活動を行っている。

◎読書活動に支援を必要とする生徒への取組

特別な支援を必要とする生徒にたいして、学校では様々な読書活動への支援を行っています。

・日本語を母語としない生徒に対しての支援活動（館内表示、指差しコミュニケーションシート）
・識字障害を持つ生徒に対する補助具の貸出

◎各校における特色ある取組

学校では、各校の特色を活かした独自の読書活動推進に関する取組を行っています。

・朝読書の実施
・夏期休暇にあわせ、貸出冊数を増やす取組、貸出冊数に応じた附録のプレゼント会の実施
・保育科の生徒を対象に、手作り絵本の講習会を行っている。
・Google Classroom で図書館のクラスを設置し、そこで新着図書、イベントなどのお知らせを行っている。
・授業や修学旅行に関わる調べ学習があるときは、ブックリストやパスファインダーを作成し、支援をしている。